



学生賞

緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクト

新野高校、小松島高校、小松島西高校勝浦校有志



緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクトチームの山川さん(左)と家城さん

身近な環境問題に取り組んで8年。学校の垣根を越え、先輩から後輩へと受け継がれてきた地域密着の取り組みが共感を得た。発表者の山川愛里さん(18)と家城ミチコさん(17)は「これまで活動について外部の方にアドバイスを受ける機会がなかったので、とても良い経験になった」と振り返る。

緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクトチームは、道路や公園などの除草作業から出る刈草に注目。産業廃棄物としての処理費や焼却時に排出される二酸化炭素(CO₂)の削減に向けて、堆肥化を進めてきた。

堆肥の発酵促進に最

刈草を堆肥化しCO₂削減

適な土壌の調査から始まり、成分の分析や効果の検証を経て高校生の団体としては全国で初めて、特殊肥料の製造・販売の許可を受けた。7月にはプロジェクトチームと徳島県、阿南市の3者で協定を結び、地域の高齢者4人を雇用。「刈草バイオマス工房・未来」として県南部健康運動公園内の施設で年間6トンの堆肥を製造する。

「もったいない2号」と名付けられた堆肥はメンバーが一つ一つ袋詰めし、農家や園芸愛好家らに配布。勝浦町では農家と連携し、新たな特産品として堆肥を利用したパッションフルーツの栽培にも取り組んでいる。

今回の受賞は、8年間プロジェクトを見守ってきた湯浅正浩・新野高校教諭(56)にとっても大きな喜びだった。「生徒たちに地域貢献の機会をとの思いで伴走してきたが、私の方がめったにできない経験をさせてもらった」

交流会では、活動を高く評価するいろどり(上勝町)の横石知二社長から個人賞を受けた。副賞は「プロジェクトチームにお話に行きます」。その日を楽しみにして、葉っぱはビジネスの勉強を始めている。